

『4DCT で解き明かされた関節内運動学知見の臨床応用』

■ 4月:

医師、看護師を含めた多くの医療者のいう運動は骨運動です。その骨運動は、関節内運動によって担われています。その関節内運動に想いをはせることができるのは、目に見えない関節内の運動をイメージできる限られたセラピストだけです。講義の中で、「4DCT で解き明かされた関節内運動学知見の臨床応用」こそが、『SJF 技術』ですとお話がありました。

この度、月例会では12画像の4DCT 画像をご提示いただきました。股関節、胸鎖関節、肋椎関節、距骨下関節、ショパール関節、手根中手関節、肩鎖関節について、外からでは見えない関節面の動きをご説明いただきました。関節面は矢状面、前額面、水平面といった一平面だけでは動いていないことがよくわかりました。関節面の形状、その関節角度によって運動軸が変わり3次元で動いています。とても複雑な関節内運動ではありますが、その動きは関節面の形状によって多くが規定されていました。画像の説明時に、どの骨運動の時に、どの骨をどちらに動かすように関節内運動を促通するといったのか教えていただきました。臨床において、この知見を関節内運動の治療にお役立ていただきたいと思います。是非、見逃し配信で繰り返しご覧ください。

(関西支部役員)